

令和 2 年度

事業所名 : グループホームすりさわ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900165		
法人名	特定非営利活動法人いわて地域支援センター		
事業所名	グループホームすりさわ		
所在地	〒029-0523 岩手県一関市大東町澤沢字但馬崎25-16		
自己評価作成日	令和2年7月13日	評価結果市町村受理日	令和2年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の立場に立って、お世話や介助を行うようにしている。</li> <li>・利用者と職員に笑顔が見られる明るい雰囲気づくりを目指している。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、同一敷地内のデイサービスや同法人の他のグループホーム、法人関連施設の特別養護老人ホームと連携し、ボランティアの受け入れ、行事の開催、災害時の避難場所の確保など、各施設の機能を活かしながら、効果的な介護サービスを提供している。運営にあたっては、グループホームの基本理念やケア目標を職員間で共有し、利用者により寄り添い、意向に沿ったきめ細かなサービスを提供している。また、運営推進会議で助言のあった防災対策や職員提案による施設整備や行事開催などを活かしながら、より充実したサービスの提供に努めている。さらに、地域の商店街の行事や地区の文化祭への参加、地域の廃品回収への協力、住民による自主防災組織の設立など、地域との相互交流に力を入れている。なお、新型コロナウイルスの感染防止に対応した、地域交流や利用者の外出支援の在り方について、思索している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年7月31日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホームすりさわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有を図るため玄関・ホールに掲示するとともに、出勤時に各自読み上げて確認を行っています。	理念やケア目標に掲げる「あなたの「したい」を応援」「安心介護の実現」「良質なサービスの提供」の三項目を職員会議等を通じて職員間で共有し、関係機関との連携を図りながら、利用者の自立支援や利用者の意向に沿った介護サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議に地域住民の代表者に出席いただき情報交換を行ったり、地区内で開催される文化祭やグルメ祭り、元気市などのイベントに参加させていただきました。町内会にも加入しており、床屋などは近隣のお店を利用しています。	町内会や商店街のお祭りや行事への参加のほか、事業所トイレの開放、地区の文化祭への作品展示、ボランティアによる伝統芸能の披露、廃品回収への協力など、地域との交流に取り組んできている。現在、コロナ禍に対応した、地域交流の在り方について思案している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学の受入れや相談にその都度対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見を活かしている	2ヶ月に1回開催しています。生活の様子を報告し、意見・助言・要望等をいただき、職員に会議結果を報告しサービスの向上に活かしています。委員の方には地元のイベントの情報提供や助言をいただいています。	利用者との食事会や防火訓練への参加を通じ、防災対策や人材確保の提言などの具体的な助言をいただき、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との連携は、運営推進会議に参加していただき、サービスへの取り組み方などへの助言をいただいたり、入居者様の生活の様子を報告しています。市の広報をご入居者様用に毎月届けていただいています。	市の担当者からは、コロナ禍への対応についての助言や資料提供を得ているほか、利用者の要介護認定申請の際の具体的な指導も受けている。市主催の集団指導会や研修会、介護保険制度の説明会に職員を派遣し、また、災害ラジオを通じ各種行政情報なども入手している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていません。法人として25年10月1日「身体拘束・虐待廃止宣言」を行い、事業所内に掲示し、30年3月1日には身体拘束及び高齢者虐待廃止指針を定め、3ヶ月に1回職員会議において身体拘束廃止委員会を開催しています。	3か月に1回、利用者ごとの身体拘束に関するチェック表を作成し、職員間で共有しながら万全を期している。また、本部作成の資料や他施設の事例などを参考に、職員研修会を開催し、知識の習得に努めている。玄関の施錠は夜間のみで、4人が転倒予防のセンサーを家族の了解を得て使用している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームすりさわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行っていません。法人として25年10月1日「身体拘束・虐待廃止宣言」を行い事業所内に掲示し、30年3月1日には身体拘束及び高齢者虐待廃止指針を定め、3ヶ月に1回職員会議において廃止の確認を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見制度」「日常生活支援事業のごあんない」などの冊子を職員に配布するとともに職員研修会で周知していますが、活用されるまでには至っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書をもって説明をし、質問や疑問、要望をお聞きしています。その上で理解・納得をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見・要望を記入できる用紙を設置しています。家族様の面会時には生活の様子をお伝えするとともに、ご要望、ご意見をうかがっています。その結果は職員に周知し迅速に対応するようにしています。	家族の意見等は、来訪時に聴き取っている。また、利用者の買い物や食事に対する(パンからご飯、うどんなど)、テレビ番組、DVDの放映などの希望や、プランターへの水遣りなどのお手伝いの意向などを聴き取り、希望に沿ったサービスを提供している。	一層の家族の意向の把握に向け、利用者の毎月の生活状況を写真やメモなどによって、家族へ情報提供することについて、検討を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案を管理者を通して代表者に報告・相談し、改善できるものは早急に改善するよう努めています。また不定期で全員による職員会議を開催したり、必要に応じて出勤者による職員会議を開催し速やかに職員の意見を反映できるようにしています。	職員会議での発言や連絡ノートへの記載、日常の会話を通じ職員の意見等を把握し、風呂の床の張替え、パソコンソフトの導入、競争心を煽らないレクリエーションの提案など、介護の改善や施設の改修に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通して代表者への状況報告をしています。また、定期昇給を実施したり、休憩時間を確実にとれるようにするなど、職員が働きやすい環境作りに努めています。		

事業所名 : グループホームすりさわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が、毎月の行事を持ち回りで担当することにし、自主的に行事に取り組めるようにしています。個々のケアの実際と力量に応じ、法人外の研修を受ける機会を確保しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわて地域密着型サービス協会主催の研修会に出席させ、他施設と交流の機会を作り、研修内容などの情報を職員間で共有し、サービスに活かしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に入居申込者様や家族様に施設を見学していただいたり、家庭訪問をして要望や不安なことなどお聞きしています。家族様や利用している事業所から情報を提供していただき、安心して入居できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様に、見学の際には施設のサービス内容を説明しながら要望・質問に応じて、不安が軽減できるよう配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様や家族様の希望をお聞きするとともに、ADLの状態を把握し、必要とする支援を知るよう努めています。医療ニーズの高い入居者様には通院介助したり、訪問看護の利用を図っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	習わし、季節の行事など人生の先輩として知恵やアドバイスをいただいています。入居者様一人ひとりの出来るところを見つけて作業を行っていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子を伝えたり、情報交換を行いながら家族状況を考慮し、行事に参加していただき絆を維持できるよう、また通院や外出など家族様の役割も担っていただき入居者様を共に支えるよう努めています。		

事業所名 : グループホームすりさわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	床屋など今まで行っていたお店に行ったり、かかりつけ医もできるだけ以前からのかかりつけ医に行くなど、以前からの知り合いなどと交流できる機会を作るよう配慮しています。	知人、友人が来訪し、近所の方には地区のお祭りで会えたり、デイサービスの行事に出向いたりして、馴染みの方との触れ合いを大切にしている。馴染みの理美容院から、客が空いた頃に連絡をいただき出かける利用者もいる。また、他のグループホームとの合同敬老会では、家族同士の交流もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係について職員間で情報を共有し、座席の工夫や余暇活動を通して交流が持てるよう支援しています。また、職員が間に入りトラブルを回避したり、孤立することがなく友好的な関係が築けるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所する際に、家族との相談や事業所との連絡・調整を行い、いつでも相談に応じるようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常会話を通じて意向・希望を把握できるよう努め、ケースに記録して情報の共有を図っています。また、職員は入居者様との関わりの中で、意向を把握し、カンファレンス時に情報交換し、サービスに反映させています。	洗濯たたみ、食器拭き、新聞紙を使ったゴミ箱作りのお手伝いや食事の希望を聴き取り、加齢に伴う難聴の利用者には、仕草や様子から意向を把握している。年々、日々の意思疎通が少なくなってきたこともあり、表情・動作の細やかな観察が求められてきている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家庭訪問をして生活の様子をお聴きしています。馴染みの物を持ち込んでもらうよう話しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やグループウェアを活用し現状の把握に努めるとともに、カンファレンス時に職員が情報を共有できるようにしています。		

事業所名 : グループホームすりさわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の入居者様との会話の中や家族様との面談の中で意向を話し合ったり、問題点や希望などカンファレンス時に話し合い、介護計画に反映させるとともに、ケアプランに基づくケアに取り組んでいます。	6ヵ月毎に計画を更新している。居室担当とケアマネが介護記録やチェック表等を基に利用者ごとのモニタリングを行い、職員会議での達成状況のアセスメントを経て、家族に説明のうえ計画を作成している。週1回来訪する看護師が作成した記録や、投薬の変更などの医師の指示も計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録とグループウエア、日誌で日々の様子や気づきなどを職員間で共有し支援しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様はもとより家族様も入居者様を取り巻く環境要因の重要な一つと考え、それぞれの状況の変化に応じて、入居者様、家族様の要望をお聞きし、グループウエアの活用、カンファレンス等を通じてサービス提供や変更を職員間で共有しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント(グルメ祭り、文化祭、元気市)に参加して、地域の一員として生活を送っていると思えるよう支援をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の希望されるかかりつけ医を受診しています。受診の際は、家族様対応を原則とし、経過報告をお渡ししています。	家族等の希望するかかりつけ医を受診している。定期受診は家族が同行している例もあるが、遠方や家族の都合などで多くの方が職員が同行している。普段の健康管理は、定期的に訪問している委託先の看護師と介護職員が行っている。訪問診療はないが医師との連携は図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を図り、訪問看護ステーションによる毎週火曜日訪問を得て、健康チェックを行っていただいています。必要に応じて、訪問看護師に情報提供し、相談しています。体調の変化を把握しながら、受診時のアドバイスを受たり、受診後の報告を行っています。		

事業所名 : グループホームすりさわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には家族様、医療機関と事業所間で情報交換に努め、入院時は薬の情報や生活の様子を伝えて、退院時には看護サマリーの提供もお願いしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針を家族様に配布するとともに、マニュアル等を使い職員に研修を行っています。	重度化・終末期対応の指針は入居時に利用者・家族に説明し同意を得ている。かかりつけ医と委託訪問看護師との連携を軸に、職員間で終末期対応の共有を図り、これまで看取りを3回経験した。マニュアルの見直しを兼ねて年一度の職員研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応するマニュアルを整備し、職員は普通救命講習を修了しており、緊急時の救急車の要請や家族連絡の仕方を話し合い職員で情報を共有しています。警備会社(セコム)と契約して緊急時の対応に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練を今年2回予定しています。地域の消防団の防火点検も行われています。職員は普通救命講習も受けています。	消防署員立会いの防火訓練を行い、通報の仕方や避難方法の講習を次回に活かしており、夜間想定訓練も実施済みである。今年度も2回の訓練を予定し、運営推進会議委員の声掛けで、近隣の方々にも応援して頂く予定としている。土砂災害に特に留意し、一時避難場所を確保し、非常食(3日分)も用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護に関する規程及び運用管理規程に基づくとともに、人格を尊重し、不快な思いをさせないような声かけを行うよう配慮しています。入居者様の声に耳を傾けるようにして、大きな声や命令口調にならないよう心掛け、入居者様の気持ちや誇りを傷つけないよう、また不安な気持ちにさせないよう支援しています。	個人情報、利用者ごとにペーパーでの保管のほか、パソコンに入力しパスワード等で適正に管理している。利用者一人一人の個性を全職員が共有し、長所は褒め、短所はさりげなくフォローしている。ADLの低下に伴い難聴者が目立ってきているため、職員の接遇の仕方も互いに注意しあっている。またレクタイムは競争心を起こさず利用者間で穏やかに楽しんでいただけるように気配りしながら支援している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームすりさわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に希望が話せたり、自己決定しやすい雰囲気作りを心掛けています。上手く表現できない入居者様には、職員が思いを汲み取り代弁するようにしていますが、一方的に決めつけるのではなく入居者様の意思の決定を待つように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ生活できるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	床屋などなるべく入居者様の要望をお聞きして支援しています。衣類も入居者様に選んでいただくよう声がけし、おしゃれができるよう配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を業者のクックチルドにしていますが、できるだけ行事食を取り入れるよう心掛けています。入居者様一人ひとりの出来るところを見つけて、片づけなど家事を行っていただいています。	三食とも外部からの調理済み食材を導入し、事業所ではご飯と味噌汁等を用意している。おやつは市販のもののほか、手作りのものも提供し、特別食の場合には手づくり料理を出している。食卓テーブルや椅子の高さは、利用者に合わせて自由に調整が出来るよう工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあった食事量、食事形態の工夫をしています。食事量、水分量の摂取を記録しており、十分な食事ができない時は補食を勧めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事ケアに関するマニュアルに基づき、食後のうがい、歯磨き、義歯の手入れの声をかけを行い、できるところは入居者様に行っていただくようにし、できないところの介助や仕上げを支援しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声がけ誘導するとともに、表情やしぐさから排泄のサインを読み取り誘導しています。	声掛け誘導により日中は全員トイレを使用しているが、夜間は1名がポータブルトイレを使用している。夜間起床時の安全のため、家族の承諾を得て5名が人感センサーを使用している。常に排泄レベルの向上を心掛けているがADL低下に伴い、現状維持が精一杯の状況にある。	



令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームすりさわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表から排便の把握をし、かかりつけ医や訪問看護師に相談しながら便秘薬の投与をしています。また、乳製品の摂取、軽い運動など自然排便ができるよう予防に心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴介助に関するマニュアルに基づくとともに、一人ひとりのタイミングで入浴できるようにしています。入浴したくない日は翌日に入浴していただくなど柔軟に対応し、急がせることのないよう支援しています。	浴槽はヒノキの一人用で、1回ごとにお湯を入れ替えている。午後入浴を基本としながら、利用者の体調や気分によって柔軟に対応している。衣服の着脱は、出来ない部分だけ応援するように心掛けています。職員は利用者を急がせることが無いよう留意しながら支援している。入浴時は、歌や世間話、昔話をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファーなど休みたいところで休めるようにしています。日中はレクリエーションや体操を行い、夜間の安眠を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人ファイルに綴り、いつでも職員が見れるようにしています。薬が変更になった時にはグループウェアや日誌に記入し全職員が把握するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様ごとにできること・できないこと、やりたいこと・やりたくないことなど体調を見ながら強制にならないよう取り組んでいただき、役割を担っていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや地域の行事などに外出しています。全員で出掛けたり、数人で出掛けたりパターンを変えながら外出支援を行っています。	利用者の体調や気分、天候を見ながら普段は外気浴や周辺の散歩を楽しんでいる。また菜園代わりに敷地南側のスペースにプランターをたくさん用意し、花や野菜への水遣りを日課としている。今年はコロナ禍により町内への買い物、外食等もままならない状況にあり、一層の工夫が必要としている。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホームすりさわ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の預かりはしていませんが、入居者様の希望する買い物は家族に話し、立替の形で購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は電話できるようにしています。家族に話したいことがある時は職員が代わってお伝えしたり、本人にお繋ぎするようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度に配慮しながら清潔を保つよう努めています。テーブルの高さや椅子はそれぞれの入居者様に合わせたものを利用いただいています。季節のタペストリーや花を飾るなどして季節感を感じていただくようにしています。	エアコンや加湿器、扇風機で、温度や空調が管理されたホールには、個々の利用者の希望に沿った、一人用や丸いテーブルが並んでいる。旧大東町地区の文化祭に展示された利用者や職員の合作の手芸品や貼り絵、ちぎり絵等がホールサイドに置かれ、全体的にすっきりした感じに設えられている。その中で、南中央部にある大型テレビとソファが賑やかな雰囲気を感じさせている。家族から3か月ごとに、カーネーションなどの鉢物を提供してくれる家族もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルで、その時々好きな居場所で過ごせるよう支援しています。居室に表札を揚げたり、トイレの表示をしたりして迷わないようにし、安全に通れるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様、家族様と相談し、花やぬいぐるみ、写真、アルバムなど慣れ親しんだ物を自由に持ち込んでいただいています。入居者様と相談しながら居室の配置をしています。	居室の入り口の一輪挿しに、四季折々の花を飾り季節感を表している。清潔なフローリングの居室にはベッド、クローゼット、エアコン、加湿器、更に中央には面会者と会話を楽めるミニテーブルが置かれ、事業所の配慮が窺われる。利用者はテレビ、家族写真、位牌などを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には入居者様、家族様の了解のもと表札をかけて自分の部屋が分かるようにしています。またトイレの表示を行い安心して生活できる環境を作っています。		